



## 三菱東京UFJ銀行

VMware Viewを活用して50,000台を超える  
仮想デスクトップ環境を構築。高度なセキュリティ体制の確立と  
端末の稼働率向上によるコスト削減を実現

### 課題

- ・金融業界で求められるセキュリティ要件への対応
- ・OA 端末の稼働率向上と運用管理コストの削減
- ・ワークスタイルの変革による業務効率の向上

### ソリューション

50,000台を超えるOA 端末の稼働率向上と情報セキュリティの強化を目指し、仮想デスクトップソリューションVMware Viewを導入

### 導入効果

- ・セキュリティが強化されたOA 端末をベースに、より高度なセキュリティ対策が実現
- ・アプリケーションも含めた環境の可視化による管理効率の向上
- ・端末の稼働率が約20%向上、それにより運用コストも15%削減
- ・紙文書の削減によるワークスタイルの変革で業務効率が向上

### 導入環境

- ・VMware View
- ・VMware ThinApp
- ・VMware vSphere
- ・Wyse CIOLE Thin Clientほかシンクライアント端末

万全のセキュリティ対策をITの重要課題と位置付ける三菱東京UFJ銀行。同行では2009年以降、VMware Viewを使って50,000台を超えるOA 端末の仮想デスクトップ環境への移行プロジェクトに取り組んできました。世界でも例のない大規模な仮想デスクトップ環境の構築を完了した現在、端末の稼働率の大幅な向上、運用コストの削減とともに、これからのビジネスを支える拡張性の高いIT基盤を手に入れることに成功しました。

### VMware Viewによる50,000台を超える仮想デスクトップ環境が稼働

日本を代表するメガバンクとして知られる三菱東京UFJ銀行では、近年、成長著しいアジア地域における金融サービスの提供に力を注いでいます。高まる金融サービスへの強いニーズを背景に、同行ではITインフラの整備を急ピッチで進めています。

一方、国内においては情報セキュリティのより一層の強化に向けて、2009年半ばから本部・各営業拠点のPCベースのOA 端末を、VMware Viewを使って仮想デスクトップ環境へと移行するプロジェクトがスタートしました。同行のシステム部 グローバルコミュニケーショングループ OPEN・BPR 基盤チーム 上席調査役を務める西井淳氏は、次のように説明します。

「PCは全行で65,000台ほどありましたが、使われていないものも多く存在していました。また、すべてのPCにはソフトウェアがインストールされているため、そのコストなど、情報セキュリティ以外にもいくつかの課題がありました」

仮想デスクトップ環境への移行はまずシステム部から始まり、本部、営業拠点へと順次拡大しながら、2012年初めからは新開発のノート型Wyseシンクライアントの配布を開始しました。そして、2012年9月には端末の配布が完了し、世界でも例のない50,000台を超えるシンクライアント端末による大規模な仮想デスクトップ環境が全面稼働します。

導入の過程でハードルの1つになったのが、ユーザが日常業務で使っているアプリケーションの整理とルール化です。システム部 グロー

バルコミュニケーショングループ OPEN・BPR 基盤チームの新田大介氏は「何千というアプリケーションが使われていたので、それをどう整理するかは大きな課題でした。そこで、アプリケーションをグループ化して数を減らしながら、VMware ThinAppのアプリケーションの仮想化技術を使って、管理負荷の軽減とユーザの利便性向上を同時に実現しました」と説明します。

### セキュリティの強化と業務効率化など当初の目的を達成

仮想デスクトップ環境への移行の成果として、三菱東京UFJ銀行が評価するのは、情報セキュリティの強化です。従来のPC環境では情報漏えいやマルウェア対策などに限界があり、さまざまなリスクや不安を抱えていました。仮想デスクトップ環境においては、個々の端末を意識することなく、高度な情報セキュリティ対策が可能となります。

また、アプリケーションも含めてすべての環境が可視化されたことで、管理効率は飛躍的に向上しています。その結果、「金融機関では難しい面がありますが、端末を行外に持ち出してもっと活用できないか、BYOD (Bring Your Own Device)も含めて議論を始めています」



株式会社三菱東京UFJ銀行  
システム部  
グローバルコミュニケーション  
グループ  
OPEN・BPR 基盤チーム  
上席調査役  
西井 淳氏

「導入を成功させる最大のポイントは志です。現状を変えるために必要なものは何かを考え、仮想デスクトップがその実現手段だと判断すれば、トップダウンでそれを実行すべきだと思います」

株式会社三菱東京UFJ銀行  
西井 淳 氏



株式会社三菱東京UFJ銀行  
システム部  
グローバルコミュニケーション  
グループ  
OPEN・BPR 基盤チーム  
新田 大介 氏

カスタマープロフィール

顧客からのあらゆる金融ニーズに対して、最高水準の商品・サービスを提供する「世界屈指の総合金融グループ」として、さまざまな事業を展開。近年はアジア各国における金融サービスの提供にも注力し、多様化・ボードレス化する世界におけるグローバル金融グループとして、経営基盤の強化に取り組んでいる。

(西井氏)と新たな活用ビジョンが生まれつつあります。これもスピーディなIT展開が可能な仮想デスクトップ環境ならではの成果といえます。

さらに仮想デスクトップ環境への移行は、行員の生産性向上にも大きく貢献しています。すでにシステム部では会議に紙の資料を持参することは少なくなっており、こうしたワークスタイルの変化は業務効率の向上につながっているといえます。

「こうした仕事のスタイルは今後、本部や営業店においても浸透していくはずですが。このほか管理面でも、これまではPC 端末に情報が残っていないかどうか、定期的にチェックしなければなりません。1台30分としても端末が65,000台ほどですから、大変な時間と労力がかかります。仮想デスクトップへの移行によって、こうした作業がなくなった点も大きな成果です」(新田氏)

エンドユーザーコンピューティングでグローバルの情報共有を目指す

仮想デスクトップの導入で、三菱東京UFJ銀行の国内OA 端末の90%がシンクライアントになりましたが、サーバー上の仮想デスクトップの数はシステム部も含めて50,000台強に削減されています。PC 利用時は端末が65,000台ほどだったことを考えると、稼働率は20%以上向上したことになります。その結果、コスト面においても当初目標としていた15%削減を達成することができました。また、現在は仮想デスクトップのOSとしてWindows XPを

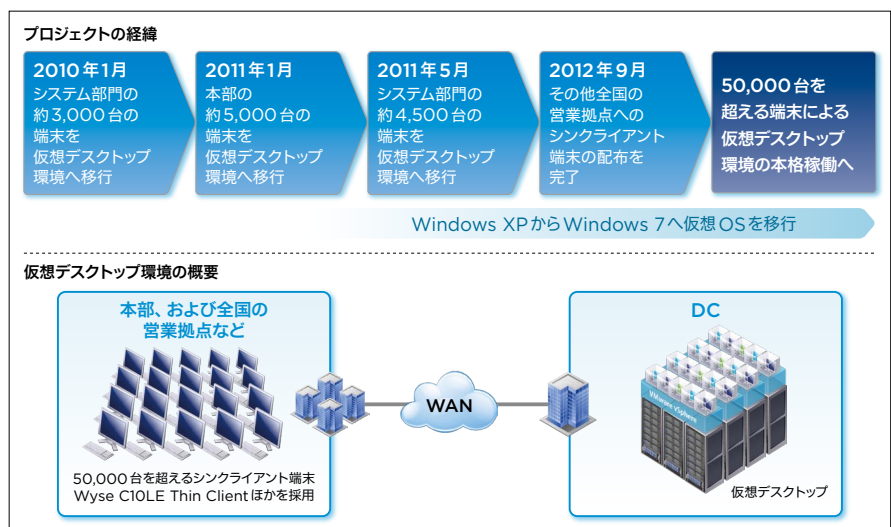
使用していますが、今後予定されるWindows 7への移行においても、可視化された環境の中で、変更が必要なアプリケーションをあらかじめ予測することができるため、スムーズな移行が可能になります。同行では、すでにその準備として、POC(概念実証)のための環境を構築して、確認作業を開始しています。

「単純なPCの管理と異なり、仮想デスクトップ環境は企業のライフラインをサーバーサービスとして提供しています。それが機能面でも常に進化を続けるわけですから、マネジメントする私たちも高いモチベーションで業務を行い、最新のテクノロジーを取り込みながら、ユーザに最適な環境を提供できるように心がけています」(西井氏)

また、同行ではセキュリティ対策の一層の強化とあわせて、効率的な情報共有を支援するVMware Horizonなどのエンドユーザーコンピューティング・ソリューションを活用して、グローバルレベルでの情報共有の仕組み作りも展望しています。

「VUEには米国本社も含めて全社をあげた協力体制を組んでもらい、仮想デスクトップ導入プロジェクトを遂行することができました。その中で信頼関係を築けたことで、ともにプロジェクトを担うパートナーとして信頼しています」(西井氏)

こうした信頼関係をベースに、三菱東京UFJ銀行ではビジネスのさらなる進化に向けて、VUEのソリューションを積極的に活用していく考えです。



図：三菱東京UFJ銀行の仮想デスクトッププロジェクト

